

概要 / Аннотация

① 横井幸子（大阪大学）、高橋健一郎（大阪大学）、佐山豪太（上智大学）

「日本の外国語としてのロシア語教育における多言語性とトランス・ランゲージング教授法」

本発表では、外国語としてのロシア語教育における多言語性を活かした教授法「トランス・ランゲージング」について検討・報告する。トランス・ランゲージングとは、バイリンガリズム・マルチリンガリズムの捉え方の一つで、「マルチリンガルがもつ全ての言語資源を、言語の境界線を超越してひとつのつながったレパートリーとして捉えた概念」であると定義されている。つまり、1人の人間が日常生活の様々な場面において複数の言語間を往来し使用するという事は、それら個々の具体的な文脈の中で生じる「認知的・社会文化的要請」に応じた「自然な」言語実践であるという考え方である。

ここではトランス・ランゲージングの概念を採用した、日本の高校と大学における実践例を取り上げる。ロシア語の授業における複数言語の活用方法とその意義、より広くは言語教育全体における多言語性について、実践例を通じて論じたい。

② ЛАТЫШЕВА Светлана Игоревна (Университет Дзёти)

Основные трудности на начальном этапе изучения русского языка

Доклад «Основные трудности на начальном этапе изучения русского языка» посвящён наиболее типичным проблемам, с которыми сталкиваются японские студенты, делая первые шаги в изучении русского языка. Вопрос освещается, прежде всего, с позиции преподавателя-носителя русского языка. На основе многолетних наблюдений автора и ответов, полученных от студентов, сделана попытка систематизации возможных путей облегчения процесса усвоения основ русского языка для студентов японских вузов.

③ サヴィヌィフ アンナ（北海道大学大学院）

日本におけるロシア語学校・クラブの現状から見える継承語教育の傾向

本研究は、日本における母語・継承語ロシア語学校・クラブの現状を明らかにするものである。ローテーションが激しいロシア語継承語教育現場の特徴を調べるため、2019年の調査に引き続き基本情報を確認し、新しい学校・サークルを把握した。また、言語内容統合型の授業の有無を調べることで継承語ロシア語の教え方の傾向を明らかにした。ロシア語のみを教える教室だけではなく、ロシア語でダンス、プログラミングなどの非言語的科目を教える教室も調査対象とし、生徒のモチベーション維持に関わるロシア語の「道具」として使う現場の教え方の特徴を調べた。2020年以降の変化も視野に入れることで日本における継承語ロシア語教育の傾向が見えるようになった。